



人と環境にやさしいトランジットモデル都市をめざして RACDA

第 159 号 2016 / 12.29

「みち」と道路 まちは人の歩く空間

■約 17 年前の 1999 年、ラクダ創設から間もなく、当時の建設省中国地方建設局の雑誌に寄稿した原稿を再録します。国土交通省は道路やまちづくりと交通を統合するために 2001 年に発足しました。

■「みちづくりとしての路面電車」

「みち」という言葉と「道路」という言葉の持つ響きは随分違うと思いませんか。「道路整備五ヶ年計画」などといえば、やはりイメージされるのは自動車の走る道路です。もちろんその自動車の中には人が乗っているのです。人が道を作るのは、当然のことながら移動を快適に、スピーディーにするためだったのですが、どうも自動車の出現以来、「みち」はみんな「道路」になってしまったようです。

私の幼い頃、そう昭和30年代のはじめ、近所の露地では夏の夕方になると縁台を持ち出し、みんなですいかを食ったり将棋をさしたりしていました。朝には近所の奥さんが家の前の掃除をしながら井戸端会議をしていたり、昼には子供たちが缶蹴りや鬼ごっこをしていたものです。一番楽しみだったのは時折来る紙芝居のおじさんでした。



つまり家の前の「みち」は、社交場というか、応接間だったり遊園地だったり劇場だったりもしたのです。みんなの生活の場そのものだったのです。むこう三軒両隣といいますが、道をはさんだ前の家は、当然のように同じ町内でしたし、道も狭くて、すぐに声がかげられる範囲でした。

私の家の前の大通りは、随筆家の内田百閒が、お江戸日本橋からずっと続いていると言った山陽道でしたから、当時からバスやトラックが走っていました。それでも町中でしたから、両側の商店は賑わい、自動車はスピードを落として遠慮気味に走っていました。

ところが家の裏に国道2号線という立派な舗装道路ができ、やがて大型トラックが地響きを立てて走るようになり、夜も寝られないほどになりました。さらに今では旧山陽道も抜け道としてどんどん自動車が入るようになり、朝晩は大渋滞。社交場だった露地も例外ではありません。露地から子供の姿も消えました。すべての「みち」は「道路」と化したのです。

NPO 法人公共の交通ラクダ(RACDA)

事務局 〒700-0823 岡山市北区丸の内 1-1-15 禁酒会館 3F TEL&FAX 086-232-5502

E-mail: info@racda-okayama.org

URL: http://www.racda-okayama.org

RACDA

検索



だから税金で遊園地を整備しなければならなくなったのです。

10年前、岡山市の中心の柳川ロータリーに、岡山は吉備の国だから黍(きび)や粟や稗(ひえ)を植えようという会、「柳川筋研究会」の会長になれといわれて、はじめて建設省の岡山国道工事事務所の方々と一緒に事業をやりました。おもえば我々は道路は道路管理者のものと考えていたようです。しかし本当は今では自動車に占領されているけれど、すべての道路は「みち」として人間性を回復すべきだったのです。

それから約10年、毎年地元町内の協力を得て、五穀の植付け祭、収穫祭をやりました。さらに地元の方々に国道53号線の歩道上の花壇の管理をしていただくようになりました。これは「ふれあい花壇」といいます。国道管理事務所は柳川筋の改良に地元の意見を取り入れることになり、昔は柳川という掘のそばに柳が植えてあったのだから、柳を植えようということになりました。

2年まえ岡山で路面電車サミットが開催され、私はその代表として、たびたび上京して建設省や運輸省を訪問し、日本の将来の交通を論じるようになりました。日本における路面電車復活の重要な瞬間に立ち会えたのです。路面電車の復活はすなわち「道路」のなかから、生活に密着した部分では「みち」を作っていこうという事の一環なのです。まち中の生活圏からできる限り自動車を排除して、公共交通機関と徒歩や自転車にかえていこうということなのです。

近々我々は岡山の県庁通りでバストランジットモール実験を行おうとしています。欧米ではもうあたりまえのランジットモール、つまり公共交通のみ通行可能な商店街ということでしょうか。しかし本当はそんなもの日本中どこでもあったのです。路面電車の走るみちはすべてランジットモールだったのです。それが今や新規施策としてもはやされるのですから、ちょっと妙な気持ちさえします。

快適な都市生活には「道路」だけでなく「みち」が必要だってことです。 「みち」は社交場ですから、そこで人が出合い、やがて文化が生まれるわけ。文化はやがてまわりまわって経済を支えることになるでしょう。21世紀の日本は「みちづくり」で再生していくんでしょね。(中国地建「みらい」寄稿随筆 平成11年7月20日、岡将男)

■この原稿を書いた1999年、県庁通りの1車線をバスとタクシー専用にしたランジットモールのイベントが実施され、路上ライブも行われました。また2000年には後樂園前の出石でも「後樂園通り歩行者天国事業とタウンモビリティ実験」(右写真)が行われ、全国に先駆けて歩いて楽しい空間づくりが試みられました。その後、姫路駅前通りや京都四条河原町では車線を減少させて歩行者空間を拡大したのです。岡山市中心部の県庁通りの交通実験もこうした取り組みの一環です。例えば中銀本店から岡山県庁前の道路も以前は2車線だったのを、1車線にして一方通行にしたのは、もうはるか昔の事でした。現在は両側は駐車帯ですが、京橋朝市会場付近を含めて歩いて楽しい空間にして、路上カフェなどを作った方がいいかもしれません。京橋朝市はそうした実験のはずだったのです。

